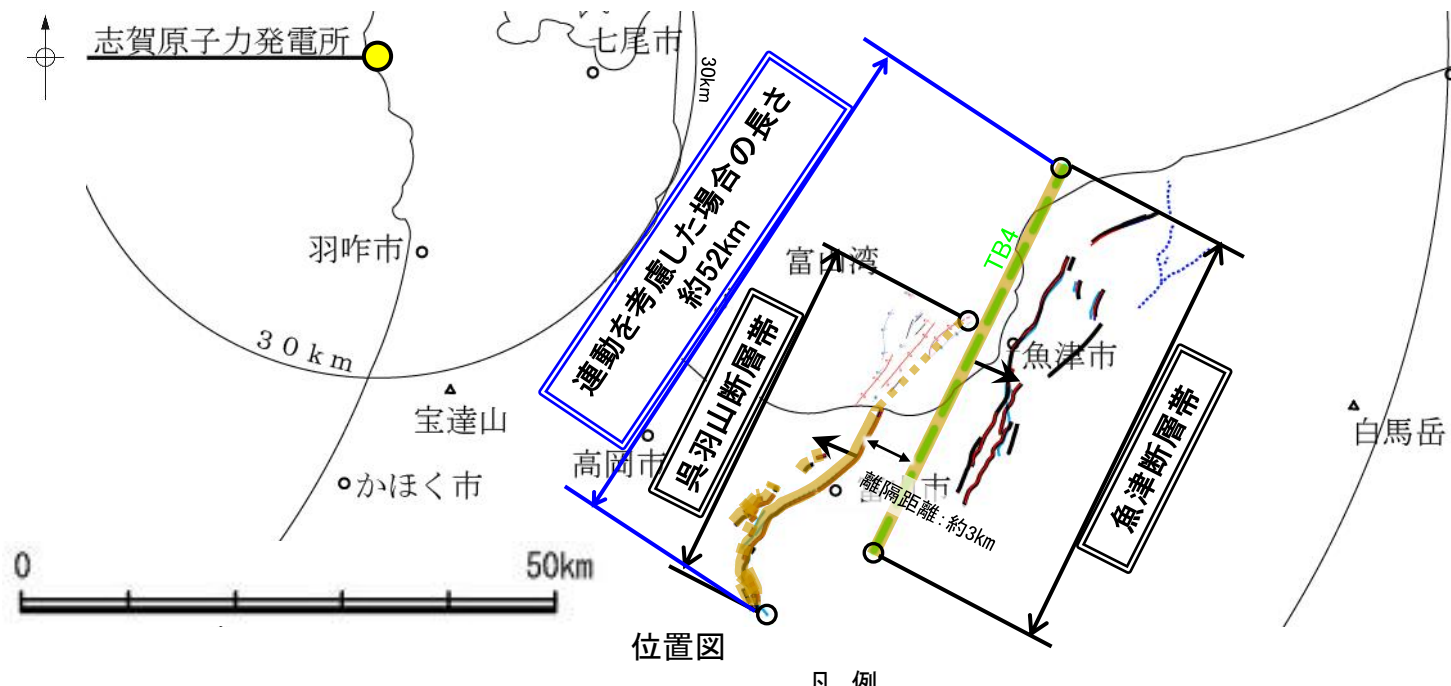
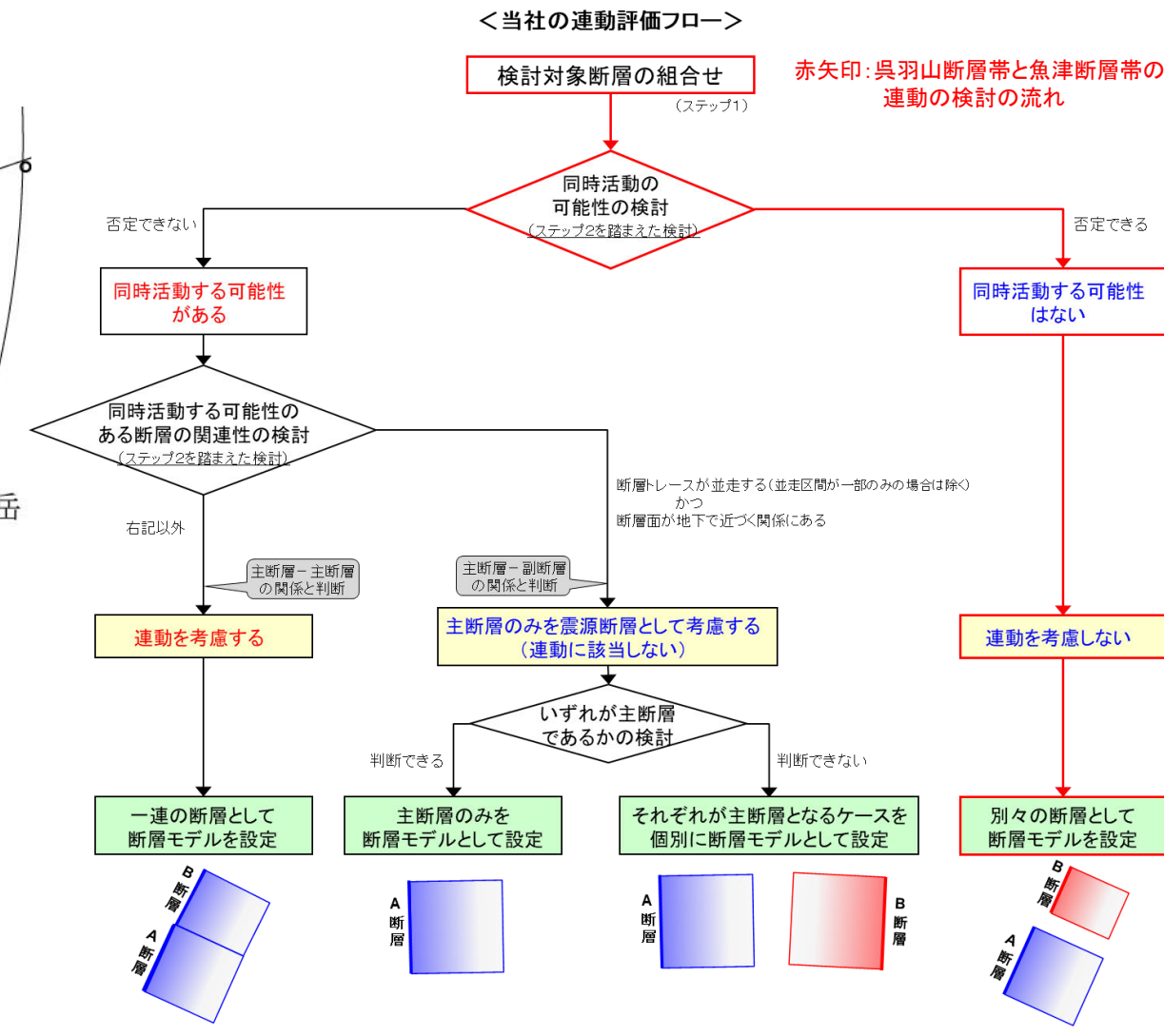


【呉羽山断層帯と魚津断層帯の連動の検討結果(位置図, 連動評価フロー)】



- [呉羽山断層帯]**
- 文献による断層(陸域)
- 地震調査委員会(2008)による逆断層
 - 堤ほか(2002)による活断層
 - 宮内ほか(2025)による活断層
- 文献による断層(海域) (富山大学・地域地盤環境研究所(2011)に基づく)
- 褶曲軸
 - 撓曲
 - 断層
- 背斜
 - 背斜状の曲がり
 - 逆断層 / 衝上断層
- 向斜
 - 向斜状の曲がり
 - 断層位置 (推定区間)
 - 断層端点
 - 傾斜方向
- [魚津断層帯]**
- 岡村他(1994)による断層
 - 岡村(2002)による逆断層
 - 国交省ほか(2014)による津波断層モデルの位置(破線は断層トレース)
 - 文科省ほか(2015)による震源断層モデルの上端位置(破線は伏在している断層の上端)
 - 富山県(2012)による断層
 - 石川県(2012)による断層
- 文献による断層(陸域)
- 地震調査委員会(2007d)による逆断層
 - 今泉ほか(2018)による活断層(破線は推定活断層)
 - 今泉ほか(2003), 東郷ほか(2003)による活断層
 - 宮内ほか(2025)による活断層



4. 敷地周辺の断層の評価(まとめ)

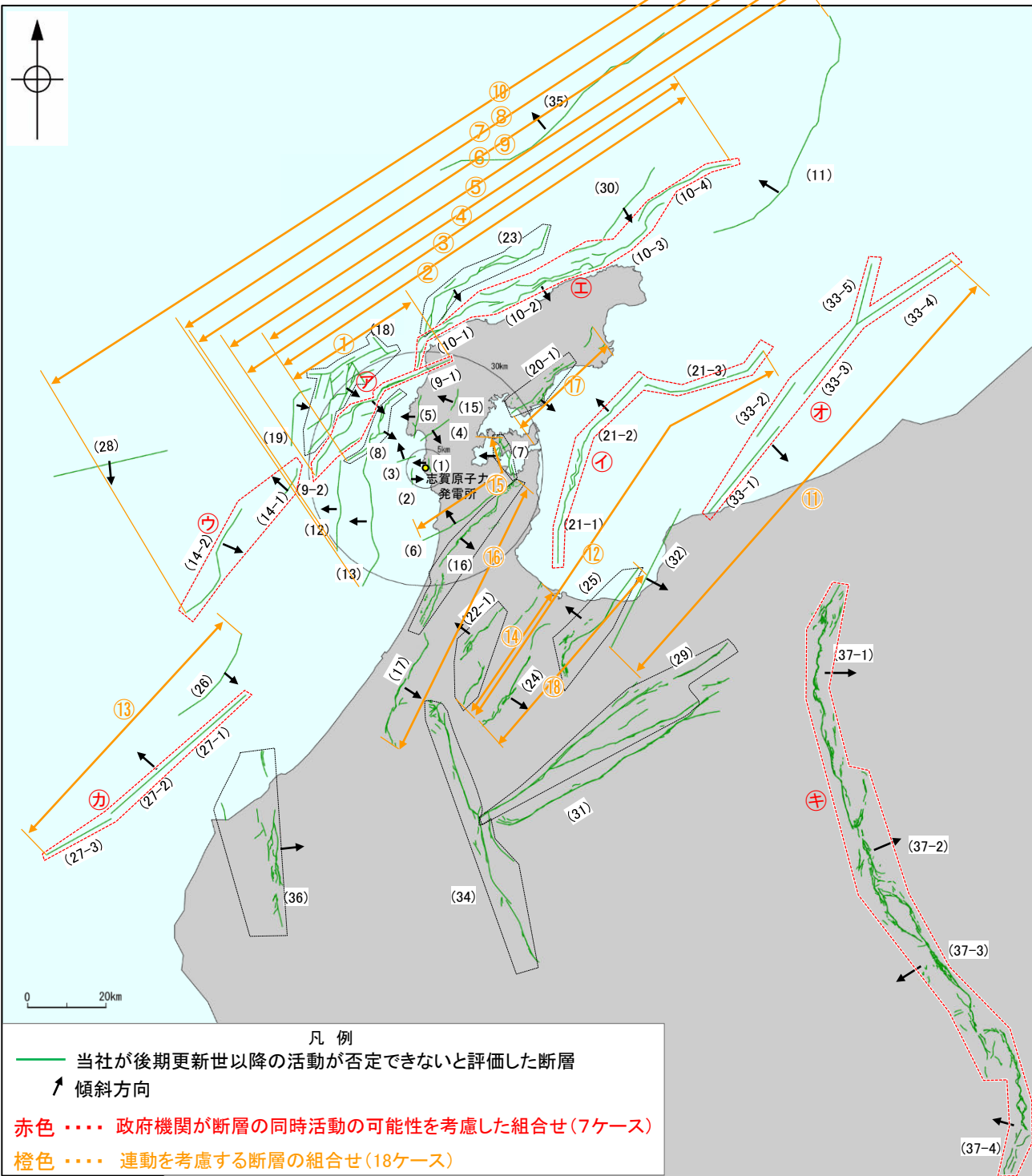
4. 敷地周辺の断層の評価(まとめ)

○敷地周辺において、震源として考慮する活断層を下图及び右表に示す。
 ○周辺陸域、周辺海域において文献調査等により抽出した全ての断層等の評価概要を次頁以降に示す。

■ 第1193回審査会合「敷地近傍の断層の評価」で概ね審議済。

■ 第1371回審査会合「敷地周辺(陸域)の断層の評価」において説明(審議中)。

紫字は第1382回審査会合以降に変更した箇所



敷地周辺の断層の分布(震源として考慮する活断層を表示)

※1: 断層長さは、原則として端点と端点を結んだ距離で示している(富山湾西側海域断層は折れ点を考慮した距離)。
 ※2: 運動を考慮した長さ及び断層の傾斜角は、調査結果に基づくものである。地震動評価及び津波評価においては、調査結果の不確実性を考慮して長さ・傾斜角を別途設定する。
 ※3: 括弧内の長さは、運動を考慮する断層の長さを足し合わせた値を記載している。また、さらなる運動を考慮する場合は、既に運動を考慮した長さに、追加で考慮する断層の長さを足し合わせた値を記載している(例えば、海士岬-笹波(東部)-能登北岸-NT2・NT3断層帯は、既に運動を考慮した海士岬-笹波(東部)断層帯の長さ(37km)に、追加で考慮する能登半島北部沿岸域断層帯の長さ(96km)とNT2・NT3の長さ(64km)を足し合わせた値(197km)を記載)。
 ※4: 能都-滝ノ坊断層帯の滝ノ坊断層は、今泉ほか(2018)を図読し断層長さを5.6km、砺波平野(西部)-高岡断層帯の高岡断層は、後藤ほか(2015)を図読し断層長さを15kmとして、それぞれ足し合わせた値を記載している。

震源として考慮する活断層

断層名	断層長さ ※1	傾斜※2	政府機関による評価を反映 7ケース	連動評価※2 ※3 18ケース
(1) 福浦断層	3.2 km	70° W	—	—
(2) 兜岩冲断層	4.0 km	E	—	—
(3) 基盤島冲断層	4.9 km	NW	—	—
(4) 富来川南岸断層	9.0 km	60° SE	—	—
(5) 酒見断層	11.0 km	W	—	—
(6) 眉丈山第2断層	23.0 km	60° NW	—	⑮眉丈山第2-能登島半の浦断層帯 39 km(34.6km)
(7) 能登島半の浦断層帯	11.6 km	60° W	—	—
(8) 海士岬冲断層帯	22.7 km	60° SE	—	①海士岬-笹波(東部)断層帯 37 km(43.3km)
(9-1) 笹波冲断層帯(東部)	20.6 km	60° SE	㉚ 笹波冲断層帯(全長) 45.5 km	②海士岬-笹波(東部)-能登北岸断層帯 124 km(133km)
(9-2) 笹波冲断層帯(西部)	25.3 km			
(10-1) 猿山冲セグメント	28 km	40~50° SE	㉛ 能登半島北部沿岸域断層帯 96 km	③笹波全長-能登北岸断層帯 133 km(141.5km)
(10-2) 輪島冲セグメント	28 km			④海士岬-笹波(東部)-能登北岸-NT2-NT3断層帯 169 km(197km)
(10-3) 珠洲冲セグメント	26 km			⑤笹波全長-能登北岸-NT2-NT3断層帯 178 km(205.5km)
(10-4) 禄剛セグメント	28 km			⑥羽咋西-笹波全長-能登北岸-NT2-NT3断層帯 187 km(228.5km)
(11) NT2・NT3	64 km	45~50° NW 地下5km以浅 60° W 地下5km以深 45~60° W	—	⑦羽咋東-笹波全長-能登北岸-NT2-NT3断層帯 190 km(239.1km)
(12) 羽咋冲西撓曲	23.0 km	60° W	—	⑧羽咋東-海士岬-笹波(東部)-能登北岸-NT2-NT3断層帯 190 km(230.6km)
(13) 羽咋冲東撓曲	33.6 km	60° W	—	⑨羽咋西-海士岬-笹波(東部)-能登北岸-NT2-NT3断層帯 187 km(220km)
(14-1) KZ3	17 km	60° NW	㉜ KZ3・KZ4 47 km	⑩KZ3・KZ4-笹波(全長)-能登北岸-NT2・NT3断層帯 226km(252.5km)
(14-2) KZ4	30 km	50~60° SE		
(15) 富来川断層	5.6 km	W	—	—
(16) 色知湯南縁断層帯	44.3 km	30° SE	—	⑰色知湯南縁-森本・富樫断層帯 74 km(74.3km)
(17) 森本・富樫断層帯	30 km	40~60° E	—	—
(18) 前ノ瀬東方断層帯	35.6 km	60° SE	—	—
(19) 沖ノ瀬断層	16 km	E	—	—
(20-1) 能都断層帯	20.9 km	44° SE	—	⑱能都-滝ノ坊断層帯 30 km(26.5km)※4
(21-1) 富山湾西側海域断層(南部)	22 km	30~50° NW	㉝ 富山湾西側海域断層 84 km	⑲砺波平野(西部)-高岡-富山湾西側海域断層帯 127 km(125km)
(21-2) 富山湾西側海域断層(北部)	7.0 km			
(21-3) TB3	24 km			
(22-1) 砺波平野断層帯(西部)	26 km	45~50° NW	—	⑳砺波平野(西部)-高岡断層帯 37 km(41km)※4
(23) 猿山岬北方冲断層	41 km	45~65° SE	—	—
(24) 砺波平野断層帯(東部)	30 km	30° SE	—	㉑砺波平野(東部)-呉羽山断層帯 57 km(65km)
(25) 呉羽山断層帯	35 km	45° NW	—	—
(26) KZ6	26 km	55~60° SE	—	—
(27-1) FU1	6.7 km	50~60° NW	㉒ 石川県西方冲の断層 65 km	㉒ KZ6-石川県西方冲断層帯 76 km(91km)
(27-2) FU2	21 km			
(27-3) FU3	21 km			
(28) KZ5	29 km	60° S	—	—
(29) 牛首断層帯	78 km	高角~ほぼ垂直	—	—
(30) 能登半島北方冲断層	31 km	45° SE	—	—
(31) 跡津川断層帯	69 km	ほぼ垂直	—	—
(32) 魚津断層帯	40 km	30° SE	—	—
(33-1) TB5	29 km	25~45° SE	㉓ 能登半島東方冲の断層 90 km	㉓ 魚津-能登半島東方冲断層帯 132 km(130km)
(33-2) TB6	17 km			
(33-3) J01	22 km			
(33-4) J02	28 km			
(33-5) J03	17 km			
(34) 御母衣断層	74 km	高角	—	—
(35) NT1	67 km	45~50° NW	—	—
(36) 福井平野東縁断層帯	45 km	50° E~ ほぼ垂直	—	—
(37-1) 糸魚川-静岡構造線活断層系(北部)	50 km	30~60° E	㉔ 糸魚川-静岡構造線活断層系 158 km	—
(37-2) 糸魚川-静岡構造線活断層系(中北部)	45 km	E(高角)		
(37-3) 糸魚川-静岡構造線活断層系(中南部)	33 km	W		
(37-4) 糸魚川-静岡構造線活断層系(南部)	48 km	30~60° W		

4.1 敷地周辺陸域の断層の評価(まとめ)

4. 敷地周辺の断層の評価(まとめ)

4.1 敷地周辺陸域の断層の評価(まとめ)

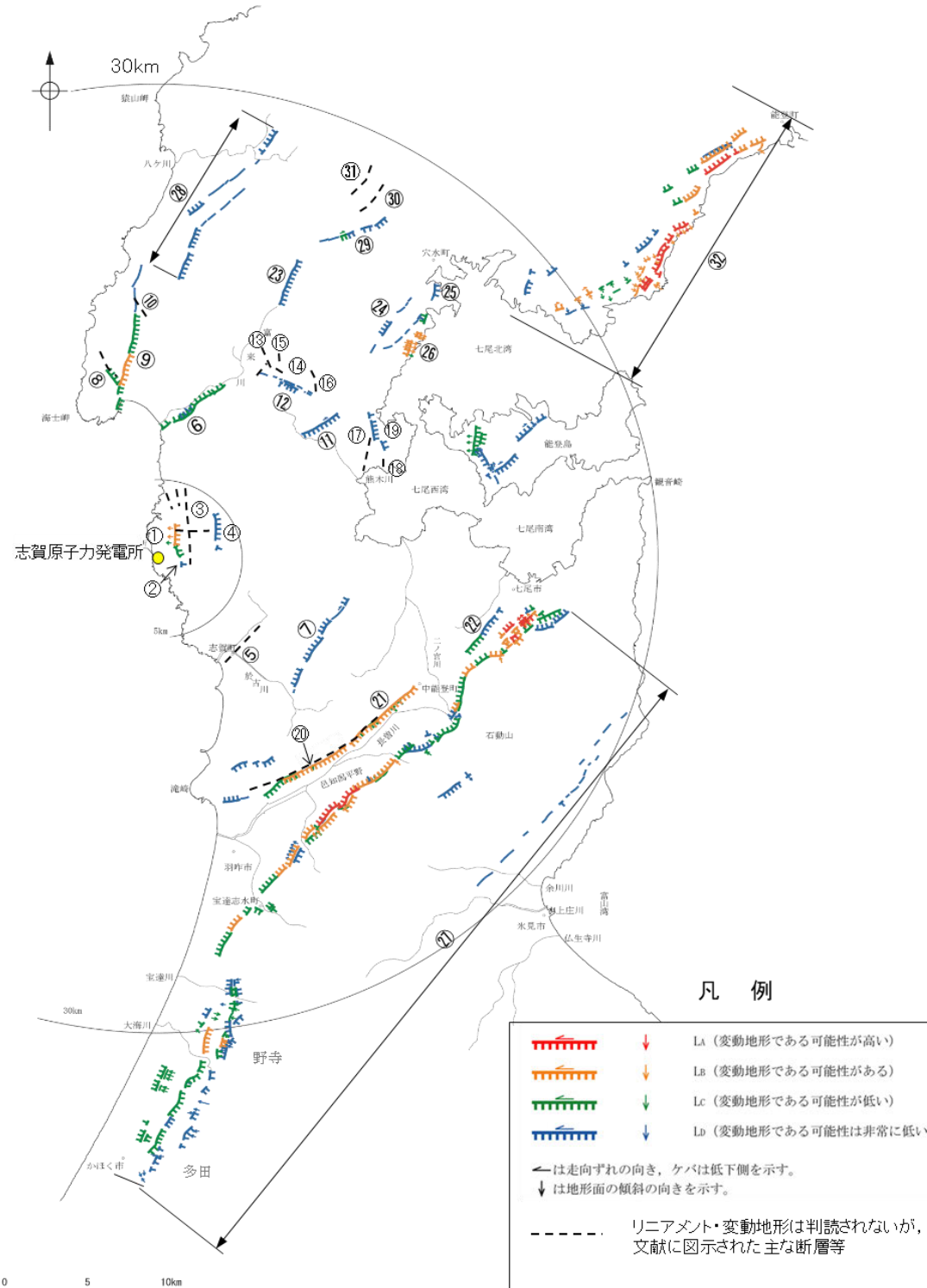
【陸域(半径30km範囲)】

■ : 第1193回審査会合「敷地近傍の断層の評価」で概ね審議済。
 □ : 第1371回審査会合「敷地周辺(陸域)の断層の評価」で説明(審議中)

敷地周辺陸域(半径30km範囲)の断層評価

No.	名称	断層長さ※1	政府機関による評価を反映	敷地からの距離※2	走向	傾斜(度)	ずれの向き	評価
①	ふくら福浦断層	3.2km	—	1.3km	N-S	西傾斜(70)	西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
②	断層o	0.27km	—	1.2km	NE-SW	南東傾斜(73)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が認められない。
③	わこうだいなみなみ 和光台南の断層	[2km]	—	2.9km	—	—	—	対応する断層が認められない。
	たかやまとうほう 高ツボリ山東方リニアメント	[3.4km]	—	2.9km	—	—	—	対応する断層が認められない。
	たかやまほくせいほう 高ツボリ山北西方Iリニアメント	[0.5km]	—	3.7km	—	—	—	対応する断層が認められない。
	たかやまほくせいほう 高ツボリ山北西方IIリニアメント	[0.8km]	—	3.8km	—	—	—	対応する断層が認められない。
④	ながたふきん 長田付近の断層	[2.5km]	—	3.7km	—	—	—	対応する断層が認められない。
⑤	たかはま 高浜断層	[3km]	—	7.4km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
⑥	とぎがわなんがん 富来川南岸断層	9.0km	—	10km	NE-SW	南東傾斜(60)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
⑦	やだ 矢駄リニアメント	[6.8km]	—	11km	—	—	—	対応する断層が認められない。
⑧	やちせいほう 谷内西方の断層	[2km]	—	12km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
⑨	さかみ 酒見断層	11.0km	—	14km	N-S	西傾斜	西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
⑩	たかつめやませいほう 高爪山西方の断層	[1.5km]	—	16km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
⑪	よこたふきん 横田付近の断層	[2.5km]	—	13km	—	—	—	対応する断層が認められない。
⑫	にしやち 西谷内リニアメント	[3.3km]	—	13km	—	—	—	対応する断層が認められない。
⑬	たじりたきせいほう 田尻滝西方の断層	[2km]	—	14km	—	—	—	対応する断層が認められない。
⑭	ふたくちせいほう 二口西方の断層	[1km]	—	14km	—	—	—	対応する断層が認められない。
⑮	こしがくちせいほう 越ヶ口西方の断層	[0.5km]	—	15km	—	—	—	対応する断層が認められない。
⑯	べつしよふきん 別所付近の断層	[1.7km]	—	15km	—	—	—	対応する断層が認められない。
⑰	おまさ 小牧断層	[1.7km]	—	15km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
⑱	せあらし 瀬嵐断層	[1km]	—	15km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
⑲	かしまだい 鹿島台リニアメント	[0.6km]	—	15km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
⑳	ひじょうざん 眉丈山第1断層	[9km]	—	15km	—	—	—	対応する断層が認められない。
㉑	ひじょうざん 眉丈山第2断層	23.0km	—	15km	NE-SW	北西傾斜(60)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
㉒	とくだほつほう 徳田北方の断層	[3.4km]	—	20km	—	—	—	対応する断層が認められない。
㉓	とぎがわ 富来川断層	5.6km	—	19km	N-S	西傾斜	西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
㉔	かしまにし 鹿島西断層	[4.4km]	—	20km	—	—	—	対応する断層が認められない。
㉕	みどりがおか 緑ヶ丘リニアメント	[5.2km]	—	21km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
㉖	そぶく 曾福リニアメント	[2.9km]	—	21km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
㉗	おうちがたなんえん 邑知湯南縁断層帯※3	44.3km	—	25km	NE-SW	南東傾斜(30)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
㉘	にしなかお 西中尾リニアメント	[11km]	—	23km	—	—	—	対応する断層が認められない。
㉙	しもからかわ 下唐川リニアメント	[3.3km]	—	23km	—	—	—	対応する断層が認められない。
㉚	おまたせいほう 小又西方の断層	[2.5km]	—	26km	—	—	—	対応する断層が認められない。
㉛	はら 原断層	[1.5km]	—	27km	—	—	—	対応する断層が認められない。
㉜	のど 能都断層帯	20.9km	—	36km	NE-SW	南東傾斜(44)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。

※1:[]内の長さはリニアメント・変動地形または文献に示された長さ
 ※2:敷地と断層の両端点を結んだ線分の midpoint から算出
 ※3:坪山-八野断層及び内高松付近の断層については、邑知湯南縁断層帯の一部として評価することとした。

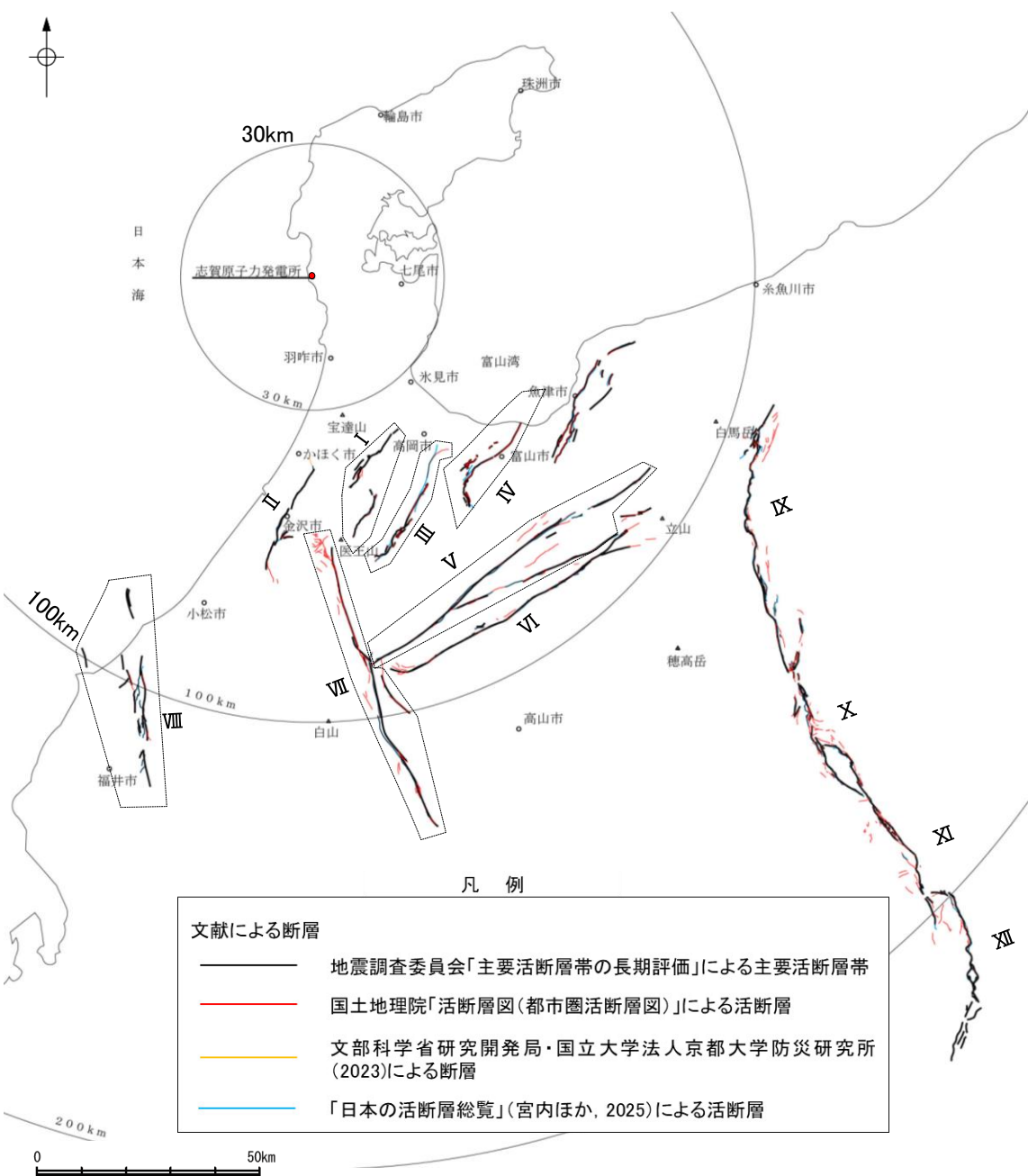


敷地周辺陸域(半径30km範囲)の断層分布図

4. 敷地周辺の断層の評価(まとめ)

4.1 敷地周辺陸域の断層の評価(まとめ)

【陸域(半径30km以遠)】



敷地周辺陸域(半径30km以遠)の断層分布図

□ : 第1371回審査会合「敷地周辺(陸域)の断層の評価」で説明(審議中)

敷地周辺陸域(半径約30km以遠)の断層評価

No.	名称	断層長さ	政府機関による評価を反映	敷地からの距離*	走向	傾斜(度)	ずれの向き	評価
I	と な み へ い や 砺波平野断層帯(西部)	26km	—	49km	NE-SW	北西傾斜(45~50)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
II	も り も と と が し 森本・富樫断層帯	30km	—	55km	N-S	東傾斜(40~60)	東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
III	と な み へ い や 砺波平野断層帯(東部)	30km	—	57km	NE-SW	南東傾斜(30)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
IV	く れ は や ま 呉羽山断層帯	35km	—	60km	NE-SW	北西傾斜(45)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
V	う し ゅ び 牛首断層帯	78km	—	80km	NE-SW	高角~ほぼ垂直	右横ずれ断層 (北東部では南東側隆起成分、南西部では北西側隆起成分を伴う)	後期更新世以降の活動が否定できない。
VI	あ と つ が わ 跡津川断層帯	69km	—	85km	NE-SW	ほぼ垂直	右横ずれ断層 (北西側隆起成分を伴う)	後期更新世以降の活動が否定できない。
VII	み ぼ ろ 御母衣断層	74km	—	94km	N-S	高角	左横ずれ断層 (加須良断層では東側隆起成分、白川断層、三尾河断層では西側隆起成分を伴う)	後期更新世以降の活動が否定できない。
VIII	ふ くい へ い や 福井平野東縁断層帯	45km	—	100km	N-S	東傾斜(50)~ほぼ垂直	左横ずれ、かつ東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
IX	い と い が わ し ず お か 糸魚川-静岡構造線活断層系(北部)	50km	糸魚川-静岡構造線活断層系 158 km	165km	N-S	東傾斜(30~60)	東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
X	い と い が わ し ず お か 糸魚川-静岡構造線活断層系(中北部)	45km			N-S	東傾斜(高角)	左横ずれ断層 (諏訪盆地南西縁では東側低下の正断層成分を含む)	後期更新世以降の活動が否定できない。
XI	い と い が わ し ず お か 糸魚川-静岡構造線活断層系(中南部)	33km			NW-SE	西傾斜	左横ずれ断層 (諏訪盆地北東縁では西側低下の正断層成分を含む)	後期更新世以降の活動が否定できない。
XII	い と い が わ し ず お か 糸魚川-静岡構造線活断層系(南部)	48km			N-S	西傾斜(30~60)	西側隆起の逆断層 (鳳凰山断層は左横ずれ成分を含む)	後期更新世以降の活動が否定できない。

※: 敷地と断層の両端点を結んだ線分の midpoint の距離から算出

4.2 敷地周辺海域の断層の評価(まとめ)

4. 敷地周辺の断層の評価(まとめ)

4.2 敷地周辺海域の断層の評価(まとめ)

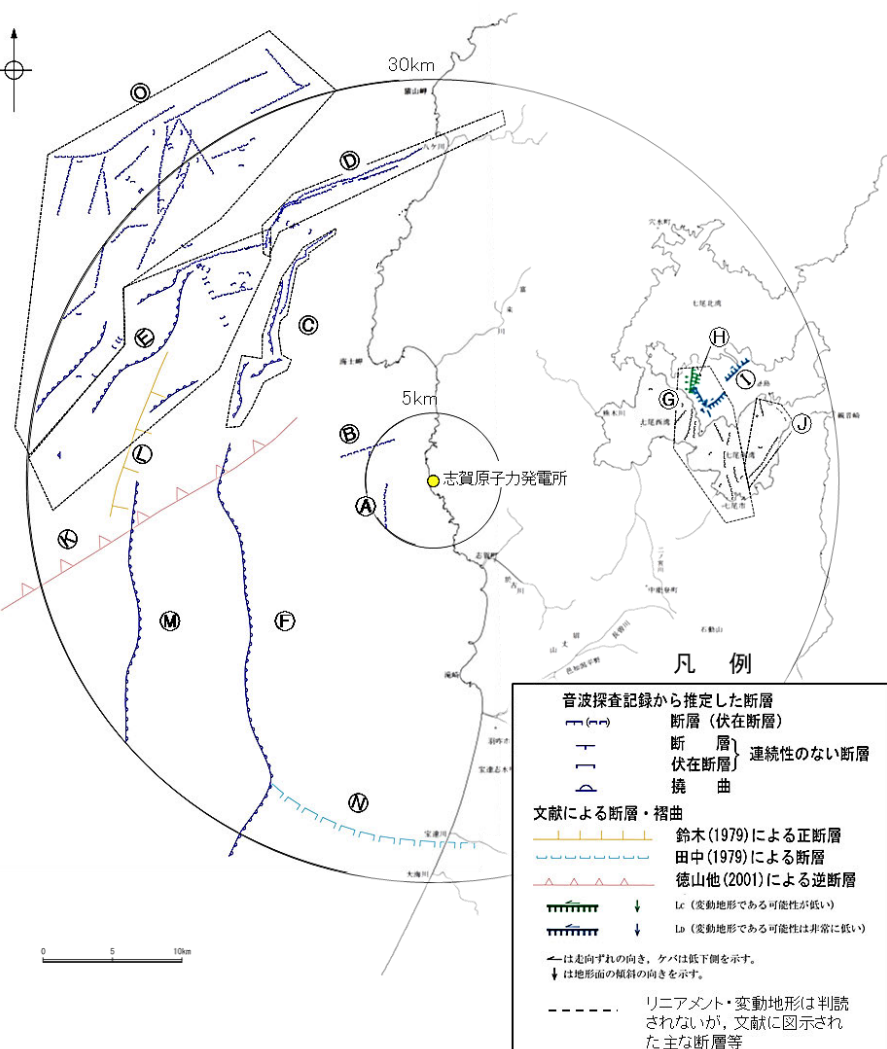
【海域(半径30km範囲)】

第1193回審査会合「敷地近傍の断層の評価」で概ね審議済。

敷地周辺海域(半径30km範囲)の断層評価

No.	名称	個別断層の評価 断層長さ※1	政府機関による評価を 反映	敷地からの距離※2	走向	傾斜 (度)	ずれの向き	評価
敷地近傍海域	Ⓐ かぶといわおき 兜岩沖断層	4.0km	—	4.0km	N-S	東傾斜	東側隆起の 逆断層	後期更新世以降の活動 が否定できない。
	Ⓑ ごぼんじま おき 基盤島沖断層	4.9km	—	5.5km	NE-SW	北西傾斜	北西側隆起の 逆断層	後期更新世以降の活動 が否定できない。
敷地前面調査海域	Ⓒ あまみさきおき 海士岬沖断層帯	22.7km	—	17km	NE-SW	南東傾斜 (60)	南東側隆起の 逆断層	後期更新世以降の活動 が否定できない。
	Ⓓ ささなみおき 笹波沖断層帯(東部)	20.6km	笹波沖断層帯(全長) 45.5 km	17km	NE-SW	南東傾斜 (60)	南東側隆起の 逆断層	後期更新世以降の活動 が否定できない。
	Ⓔ ささなみおき 笹波沖断層帯(西部)	25.3km						
	Ⓕ はくいおきひがし 羽咋沖東撓曲	33.6km	—	20km	N-S	西傾斜 (60)	西側隆起の 逆断層	後期更新世以降の活動 が否定できない。
	Ⓖ のとしまはん うら 能登島半の浦断層帯	11.6km	—	21km	N-S	西傾斜 (60)	西側隆起の 逆断層	後期更新世以降の活動 が否定できない。
	Ⓗ むせき 無関断層	[0.5km]	—	21km	-	-	-	後期更新世以降の活動 は認められない。
	Ⓙ しまべつしよきた 島別所北リニアメント	[2.2km]	—	24km	-	-	-	後期更新世以降の活動 は認められない。
	Ⓙ ななお 七尾湾調査海域の断層 (N-1断層, N-2断層, N-8断層)	2.0~4.5km	—	24km~26km	-	-	-	後期更新世以降の活動 は認められない。
	Ⓚ 徳山ほか(2001)の断層	[26km]	—	21km	-	-	-	第四系に対応する断層 は認められない。
	Ⓛ 鈴木(1979)の断層	[13km]	—	22km	-	-	-	第四系に対応する断層 は認められない。
	Ⓜ はくいおきにし 羽咋沖西撓曲	23.0km	—	24km	N-S	西傾斜 (地下5km以浅 60 地下5km以深 45~60)	西側隆起の 逆断層	後期更新世以降の活動 が否定できない。
	Ⓝ 田中(1979)の断層	[16km]	—	25km	-	-	-	第四系に対応する断層 は認められない。
	Ⓞ まえのせとうほう 前ノ瀬東方断層帯	35.6km	—	25km	NE-SW	南東傾斜 (60)	南東側隆起の 逆断層	後期更新世以降の活動 が否定できない。

※1: []内の長さはリニアメント・変動地形または文献に示された長さ
 ※2: 敷地と断層の両端点を結んだ線分の midpoint の距離から算出



敷地周辺海域(半径30km範囲)の断層分布図

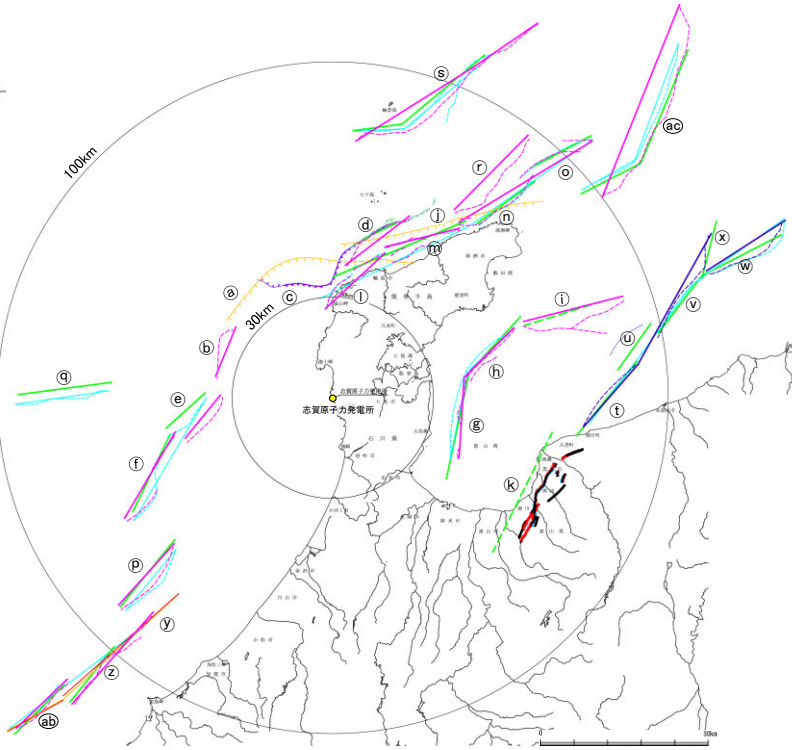
4. 敷地周辺の断層の評価(まとめ)

4.2 敷地周辺海域の断層の評価(まとめ)

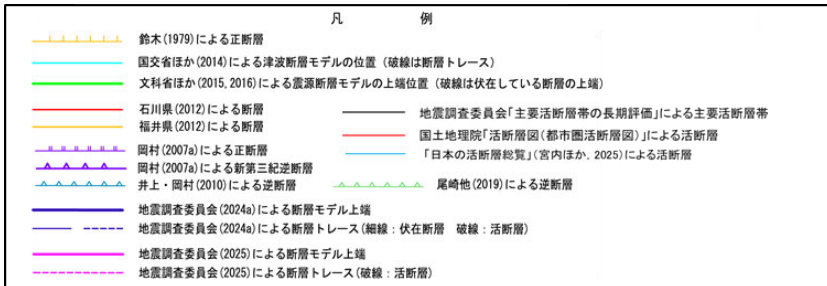
【海域(半径30km以遠)】

敷地周辺海域(半径約30km以遠)の断層評価

No.	名称	長さ※1	政府機関による評価を反映	敷地からの距離※2	走向	傾斜(度)	ずれの向き	評価
Ⓐ	F _U 2(鈴木(1979)で示された断層)	[60km]	—	32km	—	—	—	第四系に対応する断層は認められない。
Ⓑ	おきのせ 沖ノ瀬断層(地震調査委員会(2024a)で示された断層)	16km	—	35km	N-S	東傾斜	逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓒ	さるやまみさきせい 猿山岬以西の断層	[24km]	—	36km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
Ⓓ	さるやまみさきほつほうおき 猿山岬北方沖断層	41km	—	51km	NE-SW	南東傾斜(45~65)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない
Ⓔ	KZ3(文科省ほか(2015)で示された断層)	17km	KZ3・KZ4 47km	51km	NE-SW	北西傾斜(60)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓕ	KZ4(文科省ほか(2015)で示された断層)	30km			NE-SW	南東傾斜(50~60)	南東側隆起の逆断層	
Ⓖ	とやまわんしがわかしき 富山湾西側海域断層(南部)	22km	富山湾西側海域断層 84 km	53km	NE-SW	北西傾斜(30~50)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓗ	とやまわんしがわかしき 富山湾西側海域断層(北部)	7.0km						
Ⓙ	TB3	[24km]						
Ⓙ	F _U 1(鈴木(1979)で示された断層)	[63km]	—	61km	—	—	—	後期更新世以降の活動が認められない。
Ⓚ	うおづ 魚津断層帯	40km	—	63km	NE-SW	南東傾斜(30)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓛ	さるやまおき 猿山沖セグメント	28km	能登半島北部沿岸域 断層帯 96 km	65km	NE-SW	南東傾斜(40~50)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓜ	わじまおき 輪島沖セグメント	28km						
Ⓝ	すずおき 珠洲沖セグメント	26km						
Ⓞ	ろつこう 禄剛セグメント	28km						
Ⓟ	KZ6(文科省ほか(2015)で示された断層)	26km	—	76km	NE-SW	南東傾斜(55~60)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓖ	KZ5(文科省ほか(2015)で示された断層)	29km	—	80km	E-W	南傾斜(60)	南側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓡ	のとはんどうほつほうおき 能登半島北方沖断層(地震調査委員会(2024a)で示された断層)	31km	—	82km	NE-SW	南東傾斜(45)	南東側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない
Ⓒ	NT1(文科省ほか(2015)で示された断層)	67km	—	99km	NE-SW	北西傾斜(45~50)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓣ	TB5(文科省ほか(2015)で示された断層)	29km	能登半島東方沖の 断層 90 km	106km	NE-SW	南東傾斜(25~45)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓤ	TB6(文科省ほか(2015)で示された断層)	17km						
Ⓥ	JO1(文科省ほか(2015)で示された断層)	22km						
Ⓦ	JO2(文科省ほか(2015)で示された断層)	28km						
Ⓧ	JO3(文科省ほか(2015)で示された断層)	17km						
Ⓨ	FU1(文科省ほか(2016)で示された断層)	6.7km	石川県西方沖の断層 65 km	106km	NE-SW	北西傾斜(50~60)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。
Ⓩ	FU2(文科省ほか(2016)で示された断層)	21km						
ⓐ	FU3(文科省ほか(2016)で示された断層)	21km						
ⓑ	NT2・NT3	64km	—	126km	NE-SW	北西傾斜(45~50)	北西側隆起の逆断層	後期更新世以降の活動が否定できない。



敷地周辺海域(半径30km以遠)の断層分布図



※1: []内の長さは文献に示された長さ
 ※2: 敷地と断層の両端点を結んだ線分の midpoint の距離から算出

余白

参考文献

- [Adriano, B., Gokon, H., Mizutani, A., Mas, E., Koshimura, S. \(2025\): Understanding the relationship between building damage and tsunami inundation due to the 2024 Noto Peninsula Earthquake, Ocean Engineering, 340, 122179.](#)
- [Ando, R., Fukushima, Y., Yoshida, K., Imanishi K.\(2025\): Nonplanar 3D fault geometry controls the spatiotemporal distributions of slip and uplift: evidence from the Mw 7.5 2024 Noto Peninsula, Japan, Earthquake, Earth, Planets and Space, 77:53, 1-17.](#)
- 粟田泰夫・遠田晋次・吾妻崇・金田平太郎・堀川晴央(2007): 2007年能登半島地震の緊急調査報告, AFRC NEWS, 66, 4-5.
- 防災科学技術研究所(2024): 強震波形記録を用いた令和6年(2024年)能登半島地震(1月1日16時10分, M7.6)の震源インバージョン解析, 2024年2月29日改訂, https://www.kyoshin.bosai.go.jp/kyoshin/topics/noto_20240101/inversion/inv_index.html.
- [Chen, Y., Li, J., Lu, Ke., Tenghui, Hu.\(2024\): Coseismic slip model and early post-seismic deformation processes of the 2024 M7.5 Noto Peninsula, Japan earthquake revealed by InSAR and GPS observations, Geophysical Journal International, 240, 2, 1048-1063.](#)
- [Chida, Y., Takagawa, T., Suzuki, K., Tsuruta, N:\(2025\). Soliton fission at Iida Port during the 2024 Noto Peninsula Earthquake Tsunami: a numerical analysis of dispersion effects and complex propagation processes. Coastal Engineering Journal, 67, 4, 747-768.](#)
- 土木学会(1985): 「原子力発電所地質・地盤の調査・試験法および地盤の耐震安定性の評価手法」報告書, 第2編地質調査法, 土木学会原子力土木委員会.
- [Enomoto, R., Kaneko, Y., Tang, C.H., Fukushima, Y., Goto, H., Miyazaki, S.\(2025\): Multi-fault segment complexity and multi-rupture episodes during the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula earthquake, Earth, Planets and Space, 77:83, 1-14.](#)
- 福井県(2012): 福井県における津波シミュレーション結果について, 平成24年9月3日, 福井県危機対策・防災課.
- [Fujii, Y. and Satake, K.\(2024\): Slip distribution of the 2024 Noto Peninsula earthquake \(\$M_{JMA}\$ 7.6\) estimated from tsunami waveforms and GNSS data, Earth, Planets and Space, 76:44, 1-12.](#)
- [Fukushima, Y., T.Ozawa and M.Hashimoto\(2008\): Fault model of the 2007 Noto Hanto earthquake estimated from PALSAR rader interferometry and GPS data, Earth Planets Space, 60, 99-104.](#)
- [Fukushima, Y., Ishimura, D., Takahashi, N., Iwasa, Y., Malatesta, L., Takahashi, T., Tang, C., Yoshida, K., Toda, S.\(2024\): Landscape changes caused by the 2024 Noto Peninsula earthquake in Japan, Science Advances, 10, eadp9193\(2024\)](#)
- 二木敬右・米山望・吉池朋洋(2024): 令和6年能登半島地震津波の波源推定, 自然災害科学, Vol.43, No.3, 679-688.
- [Futagi, K., Yuhi, M., Arita, M., Umeda, S., Ninomiya, J., Baba, T., Suzuki, Y., Haraguchi, T:\(2025\). Post-event survey and numerical simulation of the tsunami inundation caused by the 2024 Noto Peninsula Earthquake in Hegurajima Island, Japan, Coastal Engineering Journal, 67, 4, 634-658.](#)
- 後藤秀昭・中埜貴元・小山拓志・山中蛍(2020): 1:25,000 都市圏活断層図「下梨」, 国土地理院.
- 後藤秀昭・岡田真介・楮原京子・杉戸信彦・平川一臣(2015): 1:25,000 都市圏活断層図「高岡」, 国土地理院.
- 後藤秀昭・岡田篤正・熊原康博・堤浩之・山中崇希(2019): 1:25,000 都市圏活断層図「白川村」, 国土地理院.
- [Guo, Y., Miyakoshi, K., Sato, T.\(2024\): Kinematic source rupture on listric faults for the 2024 Noto Peninsula, Japan, earthquake \(Mw 7.5\) estimated from near-field strong-motion waveforms, Earth, Planets and Space, 76:177, 1-19.](#)
- [Hamada, M., Hiramatsu, Y., Oda, M., Yamaguchi, H.\(2016\): Fossil tubeworms link coastal uplift of the northern Noto Peninsula to rupture of the Wajima-oki fault in AD 1729. Tectonophysics, 670, 38-47.](#)
- [Hiramatsu, Y., Sawada, A., Kobayashi, W., Ishida, S., Hamada, M.\(2019\): Gravity gradient tensor analysis to an active fault: a case study at the Togi-gawa Nangan fault, Noto Peninsula, central Japan. Earth, Planets and Space, 71:107,8.](#)
- 平松良浩・澤田明宏(2025): 石川県西方沖の2024年M6.6の地震に関する地震活動と重力異常に基づく断層構造, 日本地球惑星科学連合2025年大会, SSS14-P02.
- 平松良浩・石田聡史・上山エイジ・野原幸嗣・田中康久・川崎慎治・佐藤比呂志(2025): 能登半島西方沖の羽咋沖西断層周辺における臨時地震観測と震源再決定, 日本地震学会2025年秋季大会, S10-03.
- 廣内大助・澤 祥・杉戸信彦・鈴木康弘・松多信尚(2018): 1:25,000 都市圏活断層図「大町 改訂版」, 国土地理院.
- 廣内大助・澤祥・松多信尚・安江健一(2020): 1:25,000 都市圏活断層図「信濃池田 改訂版」, 国土地理院.

参考文献

- [Honda, R., Aoi, S., Matsubara, M.\(2025\): Characteristics of the source process of the 2024 M7. 6 Noto Peninsula earthquake revealed from back-projection analysis in both low-and high-frequency bands, Earth, Planets and Space, 77, 1, 149.](#)
- [Honda, R., Hiramatsu, Y., Kono, Y., Katagawa, H. \(2008\): Gravity anomalies and the geologic block structures in and around the aftershock area of the 2007 Noto Hanto Earthquake. Earth, Planets and Space, 60, 117–121.](#)
- [本多亮・澤田明宏・古瀬慶博・工藤健・田中俊行・平松良浩 \(2012\) : 金沢大学重力データベースの公表, 測地学会誌, 58, 4, 153–160.](#)
- [Huang, C., Xu, W., Bürgmann, R., Xie, L., Feng, G., Shan, B., Li, Z., Aoki, Y., Zhu, J., Liu, X.\(2025\): Heterogeneous strong asperities and tectonic complexity control irregular cascading ruptures, Science Advances, 11, 33, eadv6771.](#)
- [池田安隆・澤祥・中田高・松多信尚 \(2003\) : 1:25,000 都市圏活断層図「伊那」, 国土地理院.](#)
- [今泉俊文・澤祥・東郷正美・池田安隆 \(1998\) : 1:25,000 都市圏活断層図「甲府」, 国土地理院.](#)
- [今泉俊文・東郷正美・堤浩之・金田平太郎・中村洋介・廣内大助 \(2003\) : 1:25,000 都市圏活断層図「泊」, 国土地理院.](#)
- [今泉俊文・宮内崇裕・堤浩之・中田高 \(編\) \(2018\) : 活断層詳細デジタルマップ\[新編\], 東京大学出版会.](#)
- [井上大栄・宮越勝義・上田圭一・宮脇明子・松浦一樹 \(2002\) : 2000年鳥取県西部地震震源域の活断層調査, 地震2, 54, 557–573.](#)
- [井上卓彦・村上文敏・岡村行信・池原研 \(2007\) : 2007年能登半島地震震源域の海底活断層, 東京大学地震研究所彙報, 82, 301–312.](#)
- [井上卓彦・岡村行信 \(2010\) : 能登半島北部周辺20万分の1海域地質図及び説明書, 海陸シームレス地質情報集「能登半島北部沿岸域」, 数値地質図S-1, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.](#)
- [井上卓彦・尾崎正紀・岡村行信 \(2010\) : 能登半島北部域20万分の1海陸シームレス地質図及び断面図, 海陸シームレス地質情報集「能登半島北部沿岸域」, 数値地質図S-1, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.](#)
- [石田聡史・宮本慎也・吉田進 \(2018\) : 志賀原子力発電所前面海域における海底重力探査の概要, 電力土木2018年11月号, 398, 110–114.](#)
- [石川県 \(1997\) : 1:33,000漁場環境図「富来・志賀・羽咋海域」, 石川県.](#)
- [石川県 \(2012\) : 石川県津波浸水想定区域図の作成について](#)
- [伊藤潔・和田博夫・渡辺邦彦・堀川晴央・佃為成・酒井要 \(1994\) : 1993年能登半島沖地震, 京都大学防災研究所年報, 第37号, B-1.](#)
- [岩崎貴哉 \(2008\) : 新潟県中越沖地震から1年-\[その3\]\(最終回\) 新潟県中越沖地震の余震分布と震源断層, 地震本部ニュース2008年12月号, 10–12.](#)
- [地震調査委員会 \(2004a\) : 跡津川断層帯の長期評価について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2004b\) : 庄川断層帯の長期評価について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2005a\) : 邑知潟断層帯の長期評価について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2005b\) : 牛首断層帯の長期評価について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2007a\) : 魚津断層帯の長期評価について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2007b\) : 山形盆地断層帯の長期評価の一部改訂について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2008a\) : 平成19年\(2007年\)新潟県中越沖地震の評価\(主に断層面に関する評価\), 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2008b\) : 砺波平野断層帯・呉羽山断層帯の評価\(一部改訂\), 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2009\) : 福井平野東縁断層帯の長期評価の一部改訂について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2010\) : 「活断層の長期評価手法\(暫定版\)」報告書, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2011\) : 新庄盆地断層帯の長期評価の一部改訂について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2013a\) : 森本・富樫断層帯の長期評価の一部改訂について, 地震調査研究推進本部.](#)
- [地震調査委員会 \(2013b\) : 佐賀平野北縁断層帯の長期評価, 地震調査研究推進本部.](#)

参考文献

- 地震調査委員会(2015):糸魚川-静岡構造線断層帯の長期評価(第二版),地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2020):震源断層を特定した地震の強震動予測手法(「レシピ」),地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2021):全国地震動予測地図2020年版 地図編,地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2024a):日本海側の海域活断層の長期評価-兵庫県北方沖~新潟県上越地方沖-(令和6年8月版),地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2024b):令和6年能登半島地震の評価,令和6年2月9日,地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2024c):2024年8月の地震活動の評価,令和6年9月10日,地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2024d):2024年4月の地震活動の評価,令和6年5月13日,地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2024e):2024年11月の地震活動の評価,令和6年12月10日,地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2025a):日本海中部の海域活断層の長期評価(第一版)-近畿地方・北陸地域北方沖-,地震調査研究推進本部
- 地震調査委員会(2025b):「令和6年能登半島地震」に関する「地震調査委員長見解」,令和7年1月15日,地震調査研究推進本部.
- 地震調査委員会(2025c):2025年10月の地震活動の評価,令和7年11月13日,地震調査研究推進本部.
- 海上保安庁水路部(1982):昭和56年日本海上保安庁水路部の測量,七尾湾,第6334号,7-S.
- 海上保安庁(2024a):能登半島沖の海底で約3メートルの隆起を確認,令和6年2月8日, <https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/r6/k240208/k240208.pdf>.
- 海上保安庁(2024b):珠洲市北方沖においても海底で約4メートルの隆起を確認,令和6年6月11日, https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/r6/k240611_2/k240611_2.pdf.
- 海上保安庁(2024c):珠洲市北東沖等において海底隆起を確認~海上保安庁と北陸電力が地形解析で連携~,令和6年12月10日, <https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/r6/k241210/k241210.pdf>.
- 金沢大学(2007):平成19年能登地震断層発見のお知らせ, <https://geosociety.jp/wraps/hazard/pdf/ното/327kanazawa.pdf>.
- 金田平太郎・岡田篤正・岡田真介・小山拓志・宮内崇裕(2019):1:25,000 都市圏活断層図「立山」,国土地理院.
- 狩野謙一・村田明広(1998):構造地質学,朝倉書店.
- 粕野義夫(1993):石川県地質誌新版・石川県地質図(10万分の1)説明書,石川県・北陸地質研究所.
- 片川秀基・浜田昌明・吉田進・廉澤宏・三橋明・河野芳輝・衣笠善博(2005):能登半島西方海域の新第三紀~第四紀地質構造形成,地学雑誌,114,791-810.
- 加藤碩一・杉山雄一(編)(1985):50万分の1活構造図「金沢」,地質調査所.
- Kato,A., S.Sakai, T.Iidaka, T.Iwasaki, E.Kurashimo, T.Igarashi, N.Hirata, T.Kanazawa and Group for the aftershock observations of the 2007 Noto Hanto Earthquake(2008):Three-dimensional velocity structure in the source region of the Noto Hanto Earthquake in 2007 imaged by a dense seismic observation, Earth Planets Space,60, 105-110.
- 活断層研究会(編)(1991):新編日本の活断層-分布図と資料-,東京大学出版会.
- 勝又護・徳永規一(1971):震度IVの範囲と地震の規模および震度と加速度の対応,験震時報,第36巻,第3,4号,1-8.
- 川辺孝幸・富岡伸芳・坂倉範彦・石渡明・平松良浩・奥寺浩樹・小泉一人(2007):能登半島地震で動いた輪島市門前町中野屋地区の「断層」の発掘調査-第3報-, <https://www.k-es.org/kawabe/nakanoya3/>.
- Kobayashi, H., Watanabe, T., Koketsu, K.(2025):Rupture process of the 2024 Noto Peninsula earthquake inferred from strong motion, teleseismic, and geodetic data, Earth , Planets and Space, 77:104, 1-13.
- 小池一之・町田洋(編)(2001):日本の海成段丘アトラス,東京大学出版会.
- 国土地理院(2006):<http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/gravity/grv_serach/gravity.pl>, (参照2006-12-21).
- 国土地理院(2024a):2024年1月1日令和6年能登半島地震の震源断層モデル(暫定),2024年2月29日, <https://www.gsi.go.jp/common/000255958.pdf>.
- 国土地理院(2024b):令和6年能登半島地震に伴う地殻変動(第5報),2024年2月15日, <https://www.gsi.go.jp/common/000255675.pdf>.
- 国土地理院(2024c):「だいち2号」観測データの解析による令和6年能登半島地震に伴う地殻変動(2024年1月19日更新), https://www.gsi.go.jp/uchusokuchi/20240101noto_insar.html.

参考文献

- 小長井 一男・池田 隆明・高津 茂樹・井筒 剛司(2007):盛土・地盤の変形と地震被害, 財団法人土木学会2007 年能登半島地震災害調査速報, <<http://www.jsce.or.jp/report/42/report/konagai.pdf>>
- 熊原康博・岡田篤正・後藤秀昭・堤浩之・松多信尚(2019):1:25,000 都市圏活断層図「飛騨古川」, 国土地理院.
- 蔵下英司・酒井慎一・津村紀子・篠原雅尚(2025):令和6年能登半島地震震源域最西端における海陸統合地震観測, 日本地球惑星科学連合2025年大会, SSS12-P11.
- Kutschera, F., Jia, Z., Oryan, B., Wong, J.W.C., Fan, W., Gabriel, A.A.(2024): The Multi-Segment Complexity of the 2024 M_w 7.5 Noto Peninsula Earthquake Governs Tsunami Generation, *Geophysical Research Letters*, 51, 21.
- 京都大学(2024a):強震波形記録による令和6年能登半島地震の震源過程(暫定), 2024年1月15日, https://sms.dpri.kyoto-u.ac.jp/topics/2024noto_source_20240115.pdf.
- 京都大学(2024b):令和6年能登半島地震の強震動特性(2), 2024年2月9日, https://sms.dpri.kyoto-u.ac.jp/topics/2024noto_gm3_20240209.pdf.
- Liu, C., Bai, Y., Lay, T., He, P., Wen, Y., Wei, X., Xiong, N., Xiong, X.(2024): Shallow crustal rupture in a major MW 7.5 earthquake above a deep crustal seismic swarm along the Noto Peninsula in western Japan, *Earth and Planetary Science Letters*, 648, 119107.
- Ma, Z., Zeng, H., Luo, H., Liu, Z., Jiang, Y., Aoki, Y., Wang, W., Itoh, Y., Lyu, M., Cui, Y., Yun, S.H., Hill, E.M., Wei, S.(2024): Slow rupture in a fluid-rich fault zone initiated the 2024 Mw 7.5 Noto earthquake, *Science*, 385, 866-871.
- Ma, Z., Luo, H., Li, C., Liu, J., Wei, S. (2025): Sub-parallel fault afterslip and weak zone relaxation after the 2024 Noto earthquake, *Communications Earth & Environment*, 6, 1, 650.
- 町田洋・松田時彦・梅津正倫・小泉武栄(編)(2006):日本の地形5 中部, 東京大学出版会.
- 町田洋・新井房夫(2011):新編火山灰アトラス[日本列島とその周辺](第2刷), 東京大学出版会.
- Masuda, H., Sugawara, D., Cheng, A.C., Suppasri, A., Shigihara, Y., Kure, S., Imanishi, F.(2024): Modeling the 2024 Noto Peninsula earthquake tsunami: implications for tsunami sources in the eastern margin of the Japan Sea, *Geoscience Letters*, 11:29.
- 松多信尚・石村大輔・楮原京子・後藤秀昭・廣内大助(2018):1:25,000 都市圏活断層図「白馬岳 改訂版」, 国土地理院.
- 松多信尚・岡田篤正・岡田真介・澤祥・平川一臣・廣内大助・八木浩司(2016):1:25,000 都市圏活断層図「鶴来」, 国土地理院.
- 松多信尚・澤祥・鈴木康弘・中埜貴元・廣内大助(2021):1:25,000 都市圏活断層図「諏訪 改訂版」, 国土地理院.
- 松田時彦(1975):活断層から発生する地震の規模と周期について, *地震 第2輯*, 28, 269-283.
- 松田時彦(1990):最大地震規模による日本列島の地震分帯図, *地震研究所彙報*, 65, 289-319.
- 三澤良文(1997):大陸棚に分布する海底活断層(その1)ー能登半島北方海域での調査手法の研究ー, *東海大学紀要海洋学部*, 43, 185-200.
- 宮内崇裕・岡田篤正・金田平太郎・澤祥・中埜貴元(2019):1:25,000 都市圏活断層図「有峰湖」, 国土地理院.
- 宮内崇裕・堤浩之・石山達也・楮原京子・金田平太郎・後藤秀昭・田中正好・廣内大助・松田信尚(2025):日本の活断層総覧, 東京大学出版会.
- Mizutani, A., Adriano, B., Mas, E., Ohta, Y., Koshimura, S.(2025): ABIC-based joint inversion using tsunami, GNSS and SAR data: finite fault model of the 2024 Noto Peninsula earthquake, Japan, *Geophysical Journal International*, <https://doi.org/10.1093/gji/ggaf432>.
- Mohanna, S., Meng, L., Ho, C.T., An, C., Xu, L.(2025): The 2024 Noto earthquake and tsunami: insights from the static and adjoint state inversion methods, *Earthquake, Earth, Planets and Space*, 77:130, 1-12.
- 文部科学省研究開発局・国立大学法人京都大学防災研究所(2023):森本・富樫断層帯における重点的な調査観測, 令和4年度 成果報告書.
- 文部科学省研究開発局・国立大学法人東京大学地震研究所(2014):日本海地震・津波調査プロジェクト 平成25年度 成果報告書.
- 文部科学省研究開発局・国立大学法人東京大学地震研究所(2015):日本海地震・津波調査プロジェクト 平成26年度 成果報告書.
- 文部科学省研究開発局・国立大学法人東京大学地震研究所(2016):日本海地震・津波調査プロジェクト 平成27年度 成果報告書.
- 文部科学省研究開発局・国立大学法人東京大学地震研究所(2017):日本海地震・津波調査プロジェクト 平成28年度 成果報告書.
- 文部科学省研究開発局・国立大学法人東京大学地震研究所(2020):富士川河口断層帯における重点的な調査観測 平成29～令和元年度 成果報告書.

参考文献

- 文部科学省研究開発局・国立大学法人東京大学地震研究所(2021):日本海地震・津波調査プロジェクト 令和2年度 成果報告書.
- 森宏・阿部信太郎・青柳恭平・大上隆史(2019):1993年北海道南西沖地震震源域南部の地質構造と震源断層の関係, 地震, 第2輯, 71, 233-241.
- 村松郁栄(1969):深度分布と地震のマグニチュードの関係, 岐阜大学教育学部研究報告, 自然科学, 第4巻, 第3号, 168-176.
- 村田泰章・宮川歩夢・駒澤正夫・名和一成・大熊茂雄・上嶋正人・西村清和・岸本清行・宮崎光旗・志知龍一・本多亮・澤田明宏(2018):金沢地域重力図(ブーゲー異常), 重力図, no. 33, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- Murotani, S., Satake, K., Ishibe, T. et al. Reexamination of tsunami source models for the twentieth century earthquakes off Hokkaido and Tohoku along the eastern margin of the Sea of Japan. *Earth, Planets, and Space* 74, 52 (2022).
- 中田高・今泉俊文(編)(2002):活断層詳細デジタルマップ, 東京大学出版会.
- 中埜貴元・石村大輔・後藤秀昭・山中崇希(2020):1:25,000 都市圏活断層図「白山」, 国土地理院.
- Nakao, K., Ichimura, T., Munekane, H., Kobayashi, T., Hori, T., Fujita, K.(2025): Simultaneous Bayesian estimation of multisegment fault geometry and complex slip distribution: application to the 2024 Noto Peninsula earthquake, *Geophysical Journal International*, 242, 2, ggaf231.
- 日本第四紀学会(編)(1987):日本第四紀地図, 東京大学出版会.
- 日本第四紀学会(2010):第四紀と更新世の新しい定義と関連する地質時代・年代層序の用語について, <http://quaternary.jp/news/teigi09.html>.
- 野徹雄・平松孝晋・佐藤壮・三浦誠一・千葉達朗・上山沙恵子・壺岐信二・小平秀一(2016):日本海及びその周辺の地形データの統合と赤色立体地図, JAMSTEC Rep. Res. Dev., 22, 13-29.
- 日本海における大規模地震に関する調査検討会(2014):日本海における大規模地震に関する調査検討会報告書.
- 日本海における大規模地震に関する調査検討会 海底活断層ワーキンググループ(2014):日本海における大規模地震に関する調査検討会 海底活断層ワーキンググループ 報告書.
- Okamura, Y. (2003): Fault-related folds and an imbricate thrust system on the northwestern margin of the northern Fossa magna region, central Japan, *The Island Arc*, 12, 61-73.
- 岡村行信・竹内圭史・上嶋正人・佐藤幹夫(1994):20万分の1佐渡島南方海底地質図及び同説明書, 海洋地質図, no.43, 地質調査所.
- 岡村行信・竹内圭史・上嶋正人・佐藤幹夫(1995):20万分の1佐渡島北方海底地質図及び同説明書, 海洋地質図, no.46, 地質調査所.
- 岡村行信(2000):音波探査プロフィールに基づいた海底活断層の認定 - fault related fold, growth strata 及び growth triangle の適用, 地震調査所月報, 第51巻, 第2/3号, 59-77.
- 岡村行信(2002):20万分の1能登半島東方海底地質図及び同説明書, 海洋地質図, no.59(CD), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 岡村行信(2007a):20万分の1能登半島西方海底地質図及び同説明書, 海洋地質図, no.61(CD), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 岡村行信(2007b):能登半島及びその周辺海域の地質構造発達史と活構造, 活断層・古地震研究報告, No.7, P.197-207.
- 岡村行信(2007c):能登半島周辺の地質構造と地震との関係, 活断層研究センターニュース, 66, 1-3.
- Okuwaki, R., Yagi, Y., Murakami, A., Fukahata, Y.(2024):A Multiplex Rupture Sequence Under Complex Fault Network Due To Preceding Earthquake Swarms During the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula, Japan, *Earthquake, Geophysical Research Letters*, 51, 11.
- 太田陽子・国土地理院地理調査部(1997):「能登半島」1:100,000, 地殻変動土地条件図, 国土地理院技術資料, D.1-No.347, 国土地理院.
- 太田陽子・松田時彦・平川一臣(1976):能登半島の活断層, 第四紀研究, 15, 109-128.
- 大竹政和・平朝彦・太田陽子編(2002):日本海東縁の活断層と地震テクトニクス, 東京大学出版会.
- Okuwaki, R., Yagi, Y., Murakami, A., Fukahata, Y.(2024):A Multiplex Rupture Sequence Under Complex Fault Network Due To Preceding Earthquake Swarms During the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula, Japan, *Earthquake, Geophysical Research Letters*, 51, 11.
- 尾崎正紀(2010):能登半島北部の20万分の1地質図及び説明書, 海陸シームレス地質情報集「能登半島北部沿岸域」, 数値地質図S-1, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 尾崎正紀・駒澤正夫・井上卓彦(2010):能登半島北部及び周辺海域20万分の1地質-重力図, 海陸シームレス地質情報, 能登半島, 数値地質図S-1, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 尾崎正紀・井上卓彦・高木哲一・駒澤正夫・大熊茂雄(2019):20万分の1地質図幅「輪島」(第2版), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.

参考文献

- Peng, Z., Lei, X., Wang, Q.Y., Wang, D., Mach, P., Yao, D., Kato, A., Obara, K., Campillo, M.(2025): The evolution process between the earthquake swarm beneath the Noto Peninsula, central Japan and the 2024 M 7.6 Noto Hanto earthquake sequence, Earthquake Research Advances, 5, 100332.
- Sakai, S., Kato, A., Iidaka, I., Iwasaki, T., Kurashimo, E., Igarashi, T., Hirata, N., Kanazawa, T., the group for the joint aftershock observation of the 2007 Noto Hanto Earthquake(2008): Highly resolved distribution of aftershocks of the 2007 Noto Hanto Earthquake by a dense seismic observation. Earth Planets Space, 60, 83–88.
- 坂本 亨(1963):5万分の1地質図幅「富山」, 地質調査所.
- 桜井操・佐藤任弘・田口広・永野真男・内田摩利夫(1971):能登半島西方大陸棚の海底地形と地質構造, 地質学雑誌, 77, 10, 645–651.
- 産業技術総合研究所(2005):産総研TODAY, 産業技術総合研究所, Vol.5, No.7.
- 産業技術総合研究所(2006):魚津断層帯の活動性および活動履歴調査「基盤的調査観測対象活断層の追加・補完調査」成果報告書. No.H17-5, 12p.
- 産業技術総合研究所(2007):砺波平野断層帯・呉羽山断層帯の活動性および活動履歴調査「基盤的調査観測対象活断層の追加・補完調査」報告書. No.-H18-9, 14p.
- 産業技術総合研究所(2012):砺波平野断層帯・呉羽山断層帯(砺波平野断層帯西部)の活動性および活動履歴調査,「活断層の追加・補完調査」成果報告書, No.H23-1, 27p.
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター(2013):日本重力データベースDVD版, 数値地質図P-2, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター:活断層データベース〈<https://gbank.gsj.jp/activefault/>〉(参照2021-4-21) .
- 産業技術総合研究所(2024a):第十報 2024年能登半島地震の緊急調査報告(令和6年(2024年)能登半島地震に伴う海底活断層の変位),
- 産業技術総合研究所(2024b):第十一報 2024年能登半島地震の緊急調査報告(令和6年(2024年)能登半島地震に伴う海底活断層の上下変位)
- 佐藤比呂志・岩崎貴哉・金沢敏彦・宮崎真一・加藤直子・酒井慎一・山田知朗・宮内崇裕・伊藤谷生・平田直(2007a):反射法地震探査・余震観測・地殻変動から見た2007年能登半島地震の特徴について, 東京大学地震研究所彙報, 82, 369–379.
- 佐藤比呂志・阿部進・斉藤秀雄・加藤直子・伊藤谷生・川中卓(2007b):二船式による2007年能登半島地震震源域の反射法地震探査, 東京大学地震研究所彙報, 82, 275–299.
- 佐藤比呂志・川崎慎治・阿部進・加藤直子・岩崎貴哉・伊藤谷生(2007c):2007年能登半島地震震源域陸域の反射法地震探査, 東京大学地震研究所彙報, 82, 265–273.
- 佐藤比呂志・岩崎貴哉・石山達也・蔵下英司・加藤直子(2014):沿岸海域および海域統合構造調査, 日本海地震・津波調査プロジェクト(平成25年度)成果報告書, 105–188.
- 佐藤比呂志(2024):能登半島周辺のテクトニクスと震源断層, 日本地震学会広報誌「なみふる」, No.138, 4–5.
- 澤田明宏, 平松良浩, 水林侑, 浜田昌明, 本多亮(2012):重力異常から見た能登半島北部地域の地塊構造, 地震, 第2輯, 第64巻, 235–239.
- 澤田明宏・平松良浩・小林航・浜田昌明(2021):重力異常解析による眉丈山第2断層の断層構造の推定, 日本地球惑星科学連合2021年大会, SSS10-P05.
- 澤田明宏・石田聡史・小林航・野原幸嗣・平松良浩(2022):能登半島西方海域における3次元地質構造モデル, 日本海域研究, 53, 41–50.
- Sawaki, Y., Shiina, T., Sagae, K., Sato, Y., Horikawa, H., Miyakawa, A., Imanishi, K., Uchida, T.(2025): Fault Geometries of the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula Earthquake From Hypocenter-Based Hierarchical Clustering of Point-Cloud Normal Vectors, Journal of Geophysical Research: Solid Earth, 130, 4
- 石油公団(1974):昭和48年度大陸棚石油・天然ガス基礎調査 基礎物理探査「北陸」調査報告書.
- 石油公団(1981):昭和56年度国内石油・天然ガス基礎調査 基礎物理探査「富山沖・北陸～隠岐沖・山陰沖」調査報告書.
- 石油公団(1982):昭和57年度国内石油・天然ガス基礎調査 基礎物理探査「富山～金沢地域」調査報告書.
- 石油公団(1983):昭和58年度国内石油・天然ガス基礎調査 基礎物理探査「富山～金沢地域」調査報告書.
- 石油公団(1987):昭和62年度国内石油・天然ガス基礎調査 海上基礎物理探査「西津軽～新潟沖」調査報告書.
- Shiina, T., Horikawa, H., Sawaki, Y., Sagae, K., Imanishi, K.(2025): Aftershock distribution of the 2024 Noto Peninsula Earthquake, Japan, determined using a 3D velocity structure and uncertainty quantification, Earth, Planets and Space, 77:94, 1–13.
- Shinohara, M., Hino, R., Takahashi, T., Obana, K., Kodaira, S., Azuma, R., Yamada, T., Akuhara, T., Yamashita, Y., Kurashimo, E., Murai, Y., Isse, T., Nakahigashi, K., Baba, H., Ohta, Y., Ito, Y., Yakiwara, H., Nakatani, Y., Fujie, G., Sato, T., Shinobara, H., Mochizuki, K., Sakai, S., (2025): Precise aftershock activity in the marine source region of the 2024 Noto–Hanto earthquake by rapid response observation using ocean bottom seismometers, Earth, Planets and Space, 77:43, 1–11.

参考文献

- Smith, W. H. F., Wessel, P. (1990): Gridding with continuous curvature splines in tension, *Geophysics*, Vol.55, No.3, 293-305 ■ 杉戸信彦・池田安隆・今泉俊文・堤浩之・東郷正美 (2010) : 1:25,000 都市圏活断層図「邑知潟」, 国土地理院.
- 杉戸信彦・岡田篤正・熊木洋太・田力正好・中田高 (2019) : 1:25,000 都市圏活断層図「船津」, 国土地理院.
- 角靖夫・野沢保・井上正昭 (1989) : 5万分の1地質図幅「石動」, 地質調査所.
- 鈴木宇耕 (1979) : 東北裏日本海域の石油地質, *石油技術協会誌*, 44, 5.
- 鈴木康弘・千田昇・廣内大助・松多信尚 (2020) : 1:25,000 都市圏活断層図「松本 改訂版」, 国土地理院.
- Takagi, H., Siddiq, N.L., Tanako, F., Rosa, De La Rosa, D.P.B. (2024): Locally amplified tsunami in Iida Bay due to the 2024 Noto Peninsula Earthquake, *Ocean Engineering*, 307, 118180.
- 高橋秀暢・青柳恭平・木村治夫 (2024) : 稠密地震観測に基づく2024年能登半島地震の余震分布, 日本地震学会2024年度秋季大会, S22P-01.
- Takahashi, H., Aoyagi, Y., Yoshida, K., Kimura, H., Kurashimo, E., Sakai, S. (2026) : High-Precision Aftershock Distribution Highlights the Complex Fault Geometry of the 2024 Mw 7.5 Noto Peninsula Earthquake, *Geophysical Research Letters*, 53, e2025GL118413.
- 竹内誠・長森英明・古川竜太・及川輝樹・坂野靖行・宮川歩夢 (2023) : 20万分の1地質図幅「富山」(第2版), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 田中隆 (1979) : 北陸・山陰沖の堆積盆地の分布と性格, *石油技術協会誌*, 44, 5 .
- 田力正好・池田安隆・澤祥・今泉俊文・東郷正美 (1998) : 1:25,000 都市圏活断層図「葦崎」, 国土地理院.
- 田力正好・岡田篤正・杉戸信彦・中田高・山中崇希 (2019) : 1:25,000 都市圏活断層図「白木峰」, 国土地理院.
- The Gravity Research Group in Southwest Japan (2001) : Gravity measurements and database in southwest Japan, *Gravity Database of Southwest Japan (CD-ROM)*, Bull. Nagoya University Museum, Special Rep., No.9.
- 東郷正美・池田安隆・今泉俊文・澤祥 (1998) : 1:25,000 都市圏活断層図「金沢」, 国土地理院.
- 東郷正美・今泉俊文・堤浩之・金田平太郎・中村洋介・廣内大助 (2003) : 1:25,000 都市圏活断層図「魚津」, 国土地理院.
- 東郷正美・岡田篤正・堤浩之・石山達也・小野塚良三 (2001) : 1:25,000 都市圏活断層図「福井」, 国土地理院.
- 徳山英一・本座栄一・木村政昭・倉本真一・芦寿一郎・岡村行信・荒戸裕之・伊藤康人・徐垣・日野亮太・野原壮・阿部寛信・坂井真一・向山建二郎 (2001) : 日本周辺海域中新世最末期以降の構造発達史, *海洋調査技術*, 13-1, 27-53.
- 東京大学地震研究所(2007a): 鹿磯海岸沿いの地表変位, <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/topics/noto20070325/satou0329.html>. ■ 東京大学地震研究所(2007b): 2007年能登半島地震震源域の地震波速度構造, <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/topics/noto20070325/yochiren/coco4.html>.
- 富岡伸芳・佐藤比呂志 (2007) : 2007年能登半島地震の震源域陸域の地質, *東京大学地震研究所彙報*, 82, 255-264.
- 富山大学・地域地盤環境研究所 (2011) : 呉羽山断層帯(海域部), 平成22年度 沿岸海域における活断層調査 成果報告書. 42p.
- 富山県 (1997) : 平成7年度地震調査研究交付金 呉羽山断層に関する調査 成果報告書, 235p.
- 富山県 (1999) : 平成10年度地震関係基礎調査交付金 砺波平野断層帯に関する調査 成果報告書, 120p.
- 富山県 (2000) : 平成11年度地震関係基礎調査交付金 砺波平野断層帯に関する調査 成果報告書, 173p.
- 富山県 (2012) : 富山県津波調査研究業務 業務報告書, 平成24年3月, 富山県知事政策局防災・危機管理課, 株式会社パスコ.
- 堤浩之・石山達也・杉戸信彦・中田高・平川一臣 (2010) : 1:25,000 都市圏活断層図「邑知潟西南部」, 国土地理院.
- 堤浩之・岡田篤正・後藤秀昭・澤祥・杉戸信彦・東郷正美・宮内崇裕 (2008) : 1:25,000 都市圏活断層図「高山西南部」, 国土地理院.
- 堤浩之・東郷正美・渡辺満久・中村洋介 (2002) : 1:25,000 都市圏活断層図「富山」, 国土地理院.
- 堤浩之・東郷正美・今泉俊文・中村洋介・金田平太郎・廣内大助 (2003) : 1:25,000 都市圏活断層図「砺波」, 国土地理院.
- Umeda, S., Yuhi, M., Arita, M., Ninomiya, J. (2025) : Characteristics of tsunami propagation around the northern to western coasts of Noto Peninsula, Japan, generated by the 2024 Noto Peninsula earthquake, *Coastal Engineering Journal*, 67, 4, 725-746.

参考文献

- 宇佐美龍夫(2003):最新版 日本被害地震総覧, 東京大学出版会.
- Wessel, P., Smith, W.H.F.(1998): New, improved version of the generic mapping tools released. *Eos. Trans. AGU* 79, 579.
- Yamada, T., Mochizuki, K., Shinohara, M., Kanazawa, T., Kuwano, A., Nakahigashi, K., Hino, R., Uehira, K., Yagi, T., Takeda, N., Hashimoto, S. (2008): Aftershock observation of the Noto Hanto earthquake in 2007 using ocean bottom seismometers. *Earth Planet Space*, 60, 1005–1010.
- Yamada, T. and Ohta, Y. (2026): Simultaneous estimation of slip distribution and correlation length using Bayesian optimization and the impact of inhomogeneous observation network distribution, *Geophysical Journal International*, 244, 3, ggaf525.
- Yamada, T., Ohta, Y., Nishimura, T., Yoshida, K., Hiramatsu, Y., Kinoshita, Y. (2025): Coseismic slip distribution of the 2024 Noto Peninsula earthquake deduced from dense global navigation satellite system network and interferometric synthetic aperture radar data: effect of assumed dip angle, *Earth Planets Space*, 77:19, 1–16.
- 山田直利・坂本 亨・野沢 保・遠田朝子(1974):50万分の1地質図幅「金沢」(第2版), 地質調査所.
- 山本博文・上嶋正人・岸本清行(2000):20万分の1 ゲンタツ瀬海底地質図及び同説明書, 海洋地質図, 50, 地質調査所.
- Yamamoto, A., Shichi, R., Kudo, T.(2011): Gravity database of Japan (CD-ROM), Earth Watch Safety Net Research Center, Chubu Univ., Special Publication, No.1.
- Yamanaka, Y., Matsuba, Y., Shimozono, T., Tajima, Y.(2024): Nearshore Propagation and Amplification of the Tsunami Following the 2024 Noto Peninsula Earthquake, Japan, *Geophysical Research Letters*, 51, 19.
- 吉田邦一(2025):2024年11月26日石川県西方沖の地震の震源過程, 日本地震学会2025年秋季大会, P15-07.
- Yoshimura,R., N.Oshima, M.Uyeshima, Y.Ogawa, M.Mishina, H.Toh, S.Sakanaka, H.Ichihara, I.Shiozaki, T.Ogawa, T.Miura, S.Koyama, Y.Fujita, K.Nishimura, Y.Takagi, M.Imai, R.Honda, S.Yabe, S.Nagaoka, M.Tada and T.Mogi(2008): Magnetotelluric observations around the focal region of the 2007 Noto Hanto Earthquake(Mj6.9), Central Japan, *Earth Planets Space*, 60, 117–122.
- 吉岡敏和・栗田泰夫・下川浩一・杉山雄一・伏島祐一郎(2005):全国主要活断層活動確率地図説明書, 構造図(14), 独立行政法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター.
- Xu, L., Ji, C., Meng, L., Ampuero, J.P., Yunjun, Z., Mohanna, S., Aoki, Y.(2024): Dual-initiation ruptures in the 2024 Noto earthquake encircling a fault asperity at a swarm edge, *Science*, 385, 6711, 871–876.

余白